

講義名	対)イノベーション論		
担当教員	廣田 章光		
開講期・曜日・時限	前期集中 その他 その他	授業形態	講義
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

製品開発理論と開発の知識を獲得する。
デザイン・シンキングの手順にもとづき、顧客観察からの気づき発見、気づきからニーズ洞察、洞察から問題の解決提示の手順を習得する。最新の製品開発実態を共有しながら、製品開発の基本的な理論を、実際の製品開発の関わりを含め講義を進める。理解促進のため課題提出を求めるとともに、講義中は双方向の演習を部分的に組み込む。
大学生協電子書籍システムを使用。生協より図書館へのメーカーやコメントなどの個人ログデータの提供を受け、双方向の講義を実施。そのため、スマートフォン、タブレット、パソコンのいずれかの使用が必要。

到達目標

この科目の習得は、「知識・理解」「思考・判断」達成に關与。
観察調査から顧客の課題を発見し、解決アイデアを提示しマーケティング企画として統合する能力を習得。

提出課題

課題提出（期限を過ぎた提出は認めない）と中間報告
講義中のワークと発言
テーマ・与件に従った製品企画書（期限を過ぎた提出は認めない）

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

講義中に提出物をもとにフィードバックを実施。

評価の基準

課題提出（期限を過ぎた提出は認めない）と中間報告 40%
テーマ・与件に従った製品企画書（期限を過ぎた提出は認めない） 60%

履修にあたっての注意・助言他

マーケティング知識を活用し、創造能力、企画能力につなげます。デザイン思考を使って日々の生活の中から新たな問題を発見します

教科書	.DX時代のサービスデザイン.	廣田章光・布施匡章	丸善出版	2800	9784621306055

プリント資料及び参考文献

[ISBN]9784532321628 『「ごきぶりホイホイ」生みの親 大塚正富のヒット塾 ゼロを100に』(廣田 章光, 日本経済新聞出版社：2018)
[ISBN]9784004311836 『ビジネス・インサイト 創造の知とは何か(岩波新書)』(石井 淳嗣, 岩波書店)
[ISBN]9784844371410 『顧客企業できない社員はいらない』(大田 昌宏, クロスメディア・パブリッシング(インプレス))
[ISBN]9784152095633 『コカ・コーラ流 100年企業の問題解決術。(デビッド・パトラー, 早川書房：2015)
[ISBN]9784309247113 『KING JIII ヒット文具を生み続ける独創のセオリー』(西本 彰, 河出書房新社：2015)
[ISBN]9784822264949 『実践 デザイン・シンキング』(日経SP社：2014)
[ISBN]9784492533352 『ユーザーイノベーション：消費者から始まるものづくりの未来』(小川 進, 東洋経済新報社：2013)
[ISBN]9784802510257 『ビジネスで活かすサービスデザイン-顧客体験を最大化するための実践ガイド』(ベン・リーズン, ビー・エヌ・エヌ新社：2016)

授業計画

講義の進め方と約束、この講義であなたに身に付くこと、講義の全体像

第2回 商品企画プロセス：ライオン「トップ ナノックス」
消費者ベースのブランドエクイティの形成において、製品がどのように関連しているかを考える。その上でブランド構築における製品開発の重要性と役割を学ぶ。

第3回 インタビュー法：養生堂「マジョリカマジョルカ」

第4回 観察法：IDEO「ATM」

第5回 リード・ユーザー法：フェリシモ「生活雑貨大賞」

第6回 アイデア創出：TOTO「クラッソ」

第7回 コンセプト開発：エースコック「JANJANソース焼きそば」

第8回 プロトタイプング：IDEO「ショップピング・カート」

第9回 市場規模の確認：ロツテ「Fill's」

第10回 顧客ニーズの確認：ハウスウェルネスフーズ「C1000ピタミシレモンカラーゲン」
バズ法、バズルビーズ法、リブレース法、キャスト法などの実践的手法も紹介。

第11回 販促提案：サントリー「ハイボール」

第12回 価格提案：バスナル「なめらかプリン」

第13回 チヤナル提案：花王「ヘルシア緑茶」

第14回 企画書作成とプレゼンテーション
フジッコ「フルーツセラピー」とグリコ「メンズポッキー」

第15回 まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：事前にテキスト内容を確認すること（120分）
復習：講義終了後、確認課題の実施（120分）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

学位授与要件である、知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材に関して、課題発見、課題解決に関する情報収集と整理、分析、構想力、創造力の能力開発につながる講義

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

フィールドワークによる観察による情報収集
観察情報のグループによるビジュアルを使った分析、考察
観察結果、観察結果を基にした備前創造内容をプレゼンテーション

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
活用：ゲストの招聘、できる能力を育成

備考